夕刊
十月七日發行
定價一ヶ月金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金（普通欄）一行金六拾錢　（特選欄）一行金九拾錢
（日曜祭日翌日休刊）

夢！夢物語

廣本光

三野混沌、吉澤健、島田を意識させられます。

——何だ三野が、吉澤だ——

中川甚夫、木田强、草野心平、美澤光夫

以上の諸兄は私の知る磐城がもつ若き文人として輝かしい明日を期待出來る人々であらう。

歴史の前方を目指して雄々しく歩みをつゞけてゐるたのもしい人々とあることはどんなに私達後輩に力をつけてくれるか知れない

そしてその未知な多くの人々が私の周圍に平町を中心として住つてゐられるのを思ふ時、何時もたまらなく會つてみたくなる。——

明るい將來を目指して努力する程の人を、一人でも多く知り合つて勵まし合ひ慰め合つて貧しいお互のために闘ひたいのです。

私は正直のところたつた一人でこつ〳〵生きてゆくことにたまらなく寂しさに負けそうです。

十三日會とか十日會とか云ふブルヂョア連中の集ひと異なつた私達貧しい若人の自由なそしてお互が一つの目的のために力一杯の精進をつゞけられる朗かな集が欲しいのです。

以上のことは私のみの考へとして動てゐるだけですが、この提案に對して諸兄のお心の中に共鳴の點は御座いませんでせうか、變な感情問題はみんな清算しちまつてそれこそ私達貧乏人のみの集ひを持ちたいと考へらたお方はないでせうか

一人の生活のみを長く續けてゐると一人でゐる場合ははんとうに裸でゐられるけれど一旦群衆の中に入ると、かたいよろいを着る心なかたくなな心——俺だつて眞實心强いものを把握して先き切つてゐるんだぞ！そして先輩のあらでも拾ひたがる心。

何故こうなんだらう、裸なれ裸に、もうそろ〳〵

秋冷集

島田忠夫（三）

さかしらに物言ふ男あり、文章巧みなる故に口にする。何に就て論じ、之に就て論じ或は人の誰彼を難す。古人曰、物言へば唇寒し秋の風。

○さかしらに物告るをのこ小ざかしく物は告るとも猿にかも似る

○何もかも知るちふ男人眞似をまねび飽かざる猿にかも似る

○萬葉の大鳥さかしらにものな言ひそね大うそ鳥

○秋萩の花におく露消えやすきさかしらたのみ物な言ひそね

○いさゝ草いさゝ雜誌に名を替へてあげつらふとも己れ醜の男

○都べの大き新聞をあげつらふ己れ見ませやいさゝ醜の男

○人々をあげつらふなる雄たけびの聲こそ透れ大蟲鳥

潮聲句會　第四十八回（於萬袋居）

初潮文狂撰

佳作七章

初潮の松の根方を洗ひけり　欽一
百ぐ下に初潮高し松の丘　逸郎
初潮に鹽木を寄せし入江かな　石城
打揚げし貝殼屑や葉月潮　松堂
初潮にそゝり立つ巖おそろしき　武門
大利根も逆流して葉月潮　十里
穂芒にさゝやく波や葉月潮　石城

五客

初潮の浪に逆巻く河口かな　芳月
初潮や入江に蒼のまさる音　十里
初潮に鳥も浮くかの如く見ゆ　素秋
初潮や荷揚の船に夕日さす　晩霞
初潮に崖の尾花のさゆれかな　松堂

三光　逆位

初潮や船番小屋のはや灯る　武門
初潮の流れこみたり窪の穴　江亭
初潮や大きゆるる月の影　逸郎

時代警語

○坐せるのみにて熟考せず、靑ざめたる兎、喰ひしばりたる唇、握りつめたる拳を以て眼中に確然たる目的を認めず、我意己に決せりと斷言すること能はざるものは到底勝利を得ること能はず……（ブルエル）

拈華微笑

準縣人とも謂ひ度い宮田上院議員と安藤前文部次官來平

◇

働政策と來ては正に天下一品

◇

段々演說に脂が乘ると下卑ぬ程度のベランメロ調になるが痛快

◇

生つ粹の江戸っ子と元警視總監の獅子吼

◇

嘸や三年の溜飲が下るだろ

安藤前次官の勞

醉ふて

茨涼香

（民謠）

會の矛盾を暗示してゐるのにそれだのに何故ちり〳〵ばら〳〵なのか？

何でもいゝ、何時か一所に會合してみたい、お互に若い未知の人々が顏を合せほんとうに腹の底までさらけだして泣たり笑つたりしみたい。

——斷然劇的シーンではないか、それこそ、貧しい者の貧しい者でなければきけない聲があると思ふ。

——一人の弱さ、みじめさを、あきれる程痛感した私、ハチ切れる程力强い諸兄のその叫びを一つに集めてみたいのです。

勝手な武裝と自惚とを解除すれば矢張りさみしい私自身の姿です。

文藝を手遊び的に是非する至上主義者はゐないはずだ。

かたまれ、かたまれ、かたまり度い、かたまらなければ駄目だ、そんなことをずつと以前からきいたり語つたりして來たが、もう口だけでは我慢出來なくなつた。

あゝ！誰か貧しい者のみの集ふ方法を考へつゞく者はないのか？

プロレタリアの集ひ、その形式や名目は何でもいゝのだ、私達が心から打とけることの出來る會合であるなら、感情による個人攻撃や揚足とりは、もう止めてもいゝ頃だ。

こんな考へは私のみの考へでなく、みんなの心の、どの心にかしら育くくまれてゐるはずだ。

形式は何でもいゝ、たゞ眞面目な俺達貧乏人の進路とその研究とをなし得らるゝ會合なら

もう私には飛込んでゆくだけの用意は出來てゐる。

徳利ならんだからとて心配かけぬ金は拂ふよ

もだゑ

國木田健（詩）

二十才になる男がうめいてゐた
俺の辨當は大きい
それでも腹がへる
十圓これが己の……
一月の血と肉と精神の勞苦だ
何時迄も〳〵
これ以上增す事がないんだ
服が買へるものか
冬この言葉が
胸をさす
からつかぜの樣に
心は既に寂ばくだ
紅葉の樣に
血がにじむ
破れた服をきて
やつと食つていける
何時迄も續かない
短いこれが幸福なのさ
給仕なんて二十才以上の者が居る
職か
今迄かうしてゐた己は馬鹿者よ

寄贈書目

△ローマ字十月號　春日の秋（設樂富士夫）滿洲國の獨立と敎育方針（藤田七郎）外數篇（定價二十錢東京市麹町丸の內三の一二帝劇事務所內ローマ字ひろめ會發行）

消息

△島田忠夫氏——夫人重症のため八日水戸市常盤病院に入院、山田博士の手術を受く。猶島田氏宛書簡は當分水戸いはらき新聞社學藝部氣付のこと。

△岩倉右大臣を歐米に派遣（明治四）△朝鮮閔皇后殺さる（同10）△商大專門部廢止中止に決定學生籠城を解く△ニューヨーク聯邦準備銀行割引步合一分五厘に近いとしてある、住吉から二分五厘に引上げ（昭和六）

社會の今日

○

新月が菊のにほひに受胎して、めつきり霜が光る十月　吉井勇

際間から霧のはひ寄る十月の、晩餐會は風も冷い　平野紀久子

講談

お蘭陀お蝶

（152）

渡邊默禪作
布施長春畫

『おう是が大逆人の血肉を分けた遺兒がうむ！』

下總守は憂えずそれを抱き上げた、ぢつと見詰める眼はあやしく輝いて、ぶる〳〵と四肢が震えた

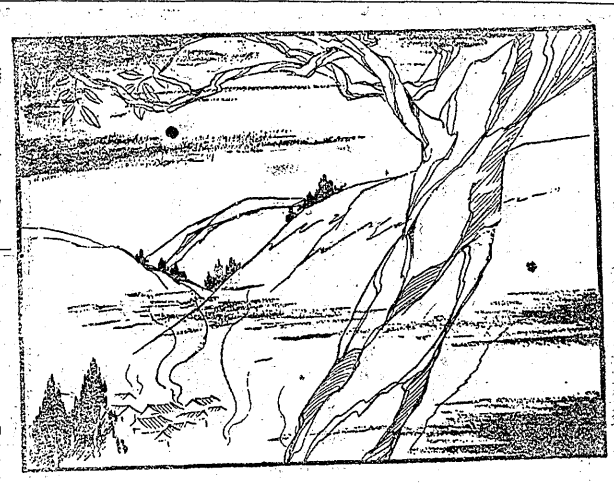
涙！其の涙が、同情ある痛快の宣告と化つたのだ

×

『お醫者さんでも有馬の湯でも、癩の病は癒されぬ』といふ俗謠にまで關西第一の名湯たる事を推奬された靈泉……それは攝津の有馬郡湯の山にあることは言ふまでもない。

讀者に少しばかり小學生徒になつて戴いて地理の說明をする、御存知の方は眼を瞑つてるがよい

大阪から行くには神崎から塚口へ出る道と西の宮から六甲山の東麓へかゝつて生瀨に出る道とあるが、今などと、棒屋の店へ行たやは汽車で住吉驛まで行き此處から六甲山を越え、瀧の川に沿つてのぼるが、一番近いとしてある、住吉から三里、山駕で樂に打たせられる



古い名所圖會には『湯槽の深さ三尺八寸、横の廣さ一丈二尺五寸、竪の長さ二丈一尺、底は敷石にして其の間々に竹筒を挾む、其の中より沸泉す味ひ鹽くして潮水の如し』としてある、泉質は鹽類泉で茶褐色を帶び浴衣や手拭は直と染まる位効能は腫物、皮膚病、婦人病が重で、肺病には有害だとある、温泉旅館は奥の坊だの、御所坊だの、角の坊だの、御所坊だの、角の坊などと、棒屋の店へ行たやうな家號ばかりだが、是は建久二年仁西上人が此處へ來て溫泉場を再興した時、和州吉野から連れて來た從者を藥師如來の十二神將にかたどつて十二坊の湯守を

いつ頃發見されたのか起源はつまびらかではないが日本記に　舒明天皇や　孝德天皇が御幸ましましては八軒に減つて了つた、外は〳〵休浴なされたことを書いてあるのを見ると、少餘と稱せられたが、目下は〳〵とも千年以上の齡を重ねた事が解る、温泉場は湯山町にある、位置は愛宕山のつたらしい。

附近には澤山の名所古蹟中腹頽嵐翠壁近く三面を圍んで居ながら畫中の人となるのだ、土地は海拔一千二百尺、人家四　五十戶、警官もあれば郵便局もあり商店櫛比と云ふ賑かな町だ浴場は宮殿風の宏壯な建物で宿屋から通つて這入る樣に拵らへてあるが、中にも別湯並湯の區別がある、並湯は一錢五厘の浴價、別湯は一錢五厘の浴價、別湯（之れを幕湯と唱へて昔は幕を張つたものだ）は一回十錢と云ふ定めで宿屋から木札を買つて持て行くのだ

落葉山、温泉寺、功地山、有馬富士、鳥地獄、虫地獄、拋木山の城跡、それから——數えるにものうい位、中ゝ數ヶ瀧には、有明櫻とながらも頭に措いて、其の輪廓の中に紫の湯煙や白い湯女をかいて置いて、それから此處に現はれて來る人物に目をうつすと、自然に背景が活きて來る。

あらあらざつと斯くの通り、有馬といふ概念を朧氣

ラヂオ

……八日…〔土曜〕…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△七、〇〇A　ラヂオ體操
△九、一〇B　料理献立
日用品値段
△一〇、三〇B　運動競技（オリムピック選手歡迎水上競技大會狀況）兵庫縣寶塚プールより中繼
△正午A　時報　氣象
△後〇、〇五A　映畫物語（生れては見たけれど）松山玉葉
△〇、四〇A　ニュース
△二、二五　五、三〇A　運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況：早大對法政）野球なき場合　四、〇〇まで延長
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△六、〇〇（子供の時間）ピアノと歌　五十嵐のぶ子
△六、二〇A　コドモの新聞
△六、二五　英語講座（中等科）ジョージ、クイジャー
△六、五五　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇A　講演（リットン報告と我國の立場）東京帝大教授法學博士神川彦松
△八、〇〇B　ピアノ、ヴァイオリン二重奏　レオ、シロタ　アレキサンダー　モギレフスキー
△八、三五A　ピアノ獨奏　井上園子
△九、〇五C　尺八連管（鹿の遠音）荒木古童　梅旭
△九、三〇A　時報
△九、三一　滿洲よりニュース　氣象

秋ヲ代表
イタシマス洋食
松茸ソテイー
松茸フライ
松茸ライス
ビフステーキ
メンチボール
チキンソテイー
紅茶
上御酒二十五錢
洋食。喫茶。宴會
コンパル
電話六六六番

吉田眼科病院
平町紺屋町

優等賞入選
芳醇酒銘
石城酒造組合主催第十三回清酒唎酒會に於て三點とも最優等賞を得たり
白馬の雪營業所
平町二丁目一一
辰の口本家　松本德一
電話一二八五　一五四六　營業所　本店
ハクバノユキ

丈夫デ安イ
二重ガラス
金銀高價買入
金光堂時計店
平。五　電一九五

産婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町
（元台津醫院跡）
電話五五九番

內科
外科
泌尿器科
醫學士　內木宗八
平町新川町十九番地
外科
產婦人科
木村病院
電話一六四番

夜診
胃腸
極毒
內科　十二指腸病
淋病
皮膚病
婦人病
專門
內科部
外科部
松村病院
性病
胃腸病
（平町南町電一〇七番）
療間

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤なつの

政友會（衆議院議員代議士會報告）演說會で
宮田安藤兩氏の獅子吼
金成氏の祝賀と總會を併せ
近來稀有の盛會を豫想さる

政友會石城郡會は明八日平町聚樂館に於て午後一時より總會

開會の辭（木村部會長）

役員改選、宣言、決議、を了つて閉會、引續き金成貴族員多額納稅議員當選祝賀會

開會の辭（部會幹事長）

選擧經過報告（事務長木村前代議士、祝辭演說士（東京第三區選出）が獅子吼する事とて例により一（宮田貴族院議員其他）

にて開會、直に現場に於て部の聽衆が入場出來ぬ程の場酒折詰の簡素なる祝宴を盛況を呈すると豫想される

政友會石城郡會は明八日平張り一と先づ散會、更に午後六時より鈴木佐藤兩代議士の議會報告演說會を開くが應援演士として龍年知事たりし關係から本縣とは最も深き緣故を有する元警視總監貴族院議員宮田光雄氏及衆議院に於ける勞働問題通としての第一人者たる前文部政務次官安藤正純代議士（東京第三區選出）が獅大に地方養蠶家を靡した晩秋鶴は昨今些か中央相場に輸動を來して製糸家が買漁るに至つた爲め三日來頓に落調を辿り始め昨六日の四倉市場は買馴五十三圓に低試合を申込むと

を期待され居るは鐵道線路以北の吉地一帶にして然して交通上の中心點たる高麗橋は現に縣補助の

下に架設せられたる前例あるのみならず當橋梁を設置すべきの必要を惹起せる因由は既記の如きものに有之、尚其の重要性に於ても此亦前記の通り有之候次第に付何卒特別の御詮議を以て當町理事者より申請中の縣費補助の願念御聞屆相成度茲に隣接地區長關係區民總代連署懇願に及候

晩秋繭依然落調
昨日の最高五十五圓八十錢
四倉市場取引況

磐城高女職員團球野

磐城高女職員は左の如く新野球チームを編成記者團並に磐中職員に

價格の低落から
木炭の生産制限
半期間に十二萬俵減少

磐三郡木炭同業組合去月中の生産檢査高は

石城　五四、七一五俵
双葉　四一、六九八
相馬　一一、二三四
合計　一〇七、六四七

で價格の低落に因る生産制限から昨年よりは八千六百二十四俵を四月以降上半期六ヶ月間に十二萬俵を激減した爲生産檢査料の收入に一大赤字を生じた組合では少からず悲鳴を擧げてゐる尚昨六日現在市場相場左の如く冬期に入つて幾分騰貴する豫想である

檜丸（五五錢）割（五〇）雜丸（四八）割（四五）柳丸（七五）割（六五）各四円匁

二等品

高麗橋架換懇情
交通上危險を感ずと
六十六名から縣へ提出

平町八幡小路と舊城跡を連繫する高麗橋の架換は從來地元區民から再三縣當局に陳情中であつたが未だに補助の交附なきため着工出來ず最近愈々腐朽甚だしく交通に危險を感ずるに至つたので今七日區長伊藤重善氏外六十六名は平町役場を經て左の陳情書を縣に提出した

（前略）—當時橋は當町を横斷せる鐵道線路以北に在る臺地の中樞にして四通の要衝なるを以て町役場、警察署、稅務署、銀行等四五のものを除きた殘は即ち當町として主要なる公共的建設物と認むべきものゝ大部は當橋中心として北進した、午後十時三十分敵陣地前約千七百米の線に分布せられ居り就中小平町八幡小路と舊城跡を連繫する高麗橋の架換は從來地元區民から再三縣當局に陳情中であつたが未だに補助の交附なきため着工出來ず最近愈々腐朽甚だしく交通に危險を感ずるに至つたので今七日區長伊藤重善氏外六十六名は平町役場を經て左の陳情書を縣に提出した

（前略）—當時橋は當町を横斷せる鐵道線路以北に在る臺地の中樞にして四通の要衝なるを以て町役場、警察署、稅務署、銀行等四五のものを除きた殘は即ち當町として主要なる公共的建設物と認むべきものゝ大部は當橋中心として北進した、午後十時三十分敵陣地前約千七百米の線に分布せられ居り就中小

中學生女學生等の日々常居

橋を經由するもの少なからざるを以て橋梁の重要程度は御了知に難からざる事と存じ候（中略）當町に於て最も今後の發展なるので大体二十日前後開方針を決定すべく吉田、阿部では十日頃左記來賓卒業生の慰安會を催し今後の大

内妻川木藤岐村島中大新中鈴佐士志永田投捕一二三遊左中右

磐中野球協議　磐中野球庭で開催される

小田部署長巡視　小田部署長は昨六日保住高等部

學校と男女青年團の体育部は十六日午前八時から同校

生徒。間。運。動。會。尋常高等小

好。

滿洲行
藤田中尉
第十九信

一青年教育に於て零下三十度の酷寒と○隊は三間房附近の敵に對し

二家山崎伍長の部戰ひ燃烈な敵銃砲火を浴び

三職死

◇大興屯—三間房英老鎗墳の小興屯—三間房英老鎗墳の

横斷せる鐵道線路以北に在る臺地の中樞にして四通の要衝なるを以て町役場、警察署、稅務署、銀行等四五のものを除きた殘は即ち當町として主要なる公共的建設物と認むべきものゝ大部は當橋中心として北進した、午後十時三十分敵陣地前約千七百米の線に分布せられ居り就中小

マンモスの骨らしい
飯野村下荒川から發掘して
德永理工博士其他が研究中

磐女教諭山口彌一郎氏は過日飯野村小學校教員柴田堯績氏が同村下荒川常磐第三紀層の新期常磐炭田層下群吉野谷砂岩層から發掘したと云ふ四三糎（一尺四寸一分九厘）の肢骨及七糎（二寸三分一厘）の齒の鑑定を依頼されたので更に寫眞を添へ磐炭顧問、早大教授、帝大講師たる理工學博士德永重康氏の示教を求めたる處今七日多分舊象の肢骨の破片と思はれるが此は實物を見ても其の種類は分り兼ねるか知れぬ、それよりも齒及び牙の分は學術上非常に興味あるものと思ふから實物を見たい旨の照會があつたので前記柴田氏が所藏するのを送るべく交渉中である

落しを鑑家の氣を揉ませて居る

白貫數八百三十一貫、最高五十五圓八十錢、最低四十圓、買馴五十三圓

尚今月中旬で出廻り濟みと

生の慰安會を催し今後の大方針を決定すべく吉田、阿

部、堀、新田目の諸氏が會長を隨へ平窪赤井小川方面を巡視した

實る秋
農村チツケス〔丈〕

恰も好矣農繁に
勇士の凱旋
唄と爆笑のカクテル
朗かな第一夜

『輕き身に重き務を恙なく果して歸る今日の嬉しさ！』

翩飜たる國旗、怒濤の如き歡聲、と共に打出だされる人々に取卷かれつゝ歸鄉した、そして鎭守樣へ凱旋奉告をして禿頭の村長さんの音頭取りで三唱した萬歲の聲は村を渡り山にこだまして遠く〳〵何處までも響いて行つた。

▽　△

無て夜のとばりが下されて凱旋勇士の家には柄にもない五十燭光の電氣が煌々と輝いてゐるその下では

『ほんとに逢者でけえつて來てえいがつたなあ』

底力のある太鼓の音、これ迎へられて凱旋勇士は待ちと焦れた老父母を始め許多の人々に取卷かれつゝ歸鄉し

善男善女を集めて
濱三郡中通り御詠歌大會
千人の參加を豫想さる

石城御詠歌會主催の濱三郡中通り御詠歌大會は十二日午前九時から赤井嶽藥師で開催するが管長旭純榮師が出席し參會者約千名に對する豫定である

永戸箕輪村長問題で
再選昇格の二派對立
有志の斡旋で圓滿決定か

永戸、箕輪組合村では村長れ當日は何等纏らなかつた高萩正一氏辭職に就き一時が一部有志の斡旋により沂五日後任決定の村會を招集く二者何れかに滿場一致決したが高萩氏の再選と萩野氏定を見る模樣である。倉太助役の昇格と二派に分

大久村益々紛糾
村長派組彈の火の手揚つて
一層擴大の危機を孕む

平檢事局では双葉郡大久村相遠の黠十數ヶ所の不正の濱職事件に就て引續き取調べを進めてゐるが一昨五日も今田村議を召喚し村會議は完成した工事中設計と

の事情林道改鑿工事の監督

模樣其他に亦て聽取する所かつたが村民は實行委員柳

井唯一郎氏外二十餘名

舉、柳井村長派を糾彈すべ

意氣捲いてゐる。今田村

を聽いた村民は極度に憤慨

發覺した外檢査後に与拂ふ

費を手直しを理由に事前に

渡し多數決で可決し市川

檢事の取り調べ中に拘らず

十一日當大倉竣功式を擧行

すべく計劃を進めてゐるの

五日前記實行委員は根本

的に

潛走始めた、氣をも綴めに一部は西北方に潛走した

すこれに追擊射擊を行つた

敵屍壘々と折重なつて倒れ

其數二百五六十を算した、

山崎分隊長は此の時早くも

最高地に攀登し一部を追擊

砲撃に一部をして追擊を或

者は壕内を或る者は壕上を

更に第二陣地に向はしめた

◇第一戰陣地に破れた

敵は第二、第三陣に支ふる

のこの勇猛果敢な突入には

たが元より我が猛烈な追擊

抗し得ず隊勢漸く亂れて

抗し得ず主力は東北方

に潛走した

攻擊を開始した（要圖參照）

は左右方向のと合して敵火

すれば正面堅壘よりの射擊

愈々猛烈を極め遂に射擊を

以て應戰すること不可能に

なつたので敢然先頭になつ

て敵の陣地に突入した。

◇部下之に從ひ、敵陣

目がけて勇敢に突入すれば

物凄き手榴彈戰尖光きらめく白兵戰が各所に展開せられ忽ち修羅の巷と化した。

流石に頑强な敵も山崎伍長

と初老脫に着た儘、筆筒の隅に仕舞ひ込んでた紋付に樟腦の香を漂はせ乍ら一座の年長である親爺さんが先

唄つたのを皮切りに後は

唄、歌、謠、爆笑のカクテル

だ、恁うして歡喜の雰圍氣に包まれた凱旋勇士歸宅の第一夜は秋の凋落を喞つ虫の聲をよそにいとも朗かに更けて行くのである。

（鈴光生）

窃盜が半減して
詐欺傷害が增す
平署去月中の犯罪件數

平署で去月中取扱つた犯罪式により執行すると件數は

種別	發生	檢擧	人員
失火	二	二	二
賭博	二	二	七
傷害	八	八	七
過失傷害	一	一	一
死	一	一	一
窃盜	二七	八	三
脅迫	一	一	一
詐欺	八	三	三
横領	四	四	二
業務同	四	四	三
其他	十三	六	五
合計	一四一	一三三	一〇四

で昨年同期に比較すれば窃盜の五割を筆頭に總体で二割を減じたが詐欺と傷害は反對に三割の增である

山崎たけ媼
昨晩長逝十日葬儀

平町山崎與三郎氏令閨たけ子媼は數て病氣中の處療養に榮轉した大内潛造氏は明子は昨六日午前五時十分八日午前十時五十分の上り死去した。行年六十三歳、にて出發後任赤津成一郎氏葬儀は來十日午後二時自宅は今七日各方面を歷訪着任出棺長橋町姓源寺に於て佛の挨拶をした

大内記者出發
いはらき平支局から鉾田支局長に榮轉した大内潛造氏は明八日午前十時五十分の上り

酔の廻るに伴れてみんな
村宮峰根第六號ノ二採炭夫梅津寅吉（五三）は一日作業中落磐で壓死した

蜂屋柿出荷協議　大野村役場で今七日午後一時から開いた

宿料踏みに一年　住所不定無職安達郡二本松生れ佐久間吉之助（五五）は去月二十四日夜平町田町旅館藤出屋事鈴木タメ方に於て二圓七十錢の宿料を踏み昨六日平署赤井小川方面を巡視した

落磐に潰さる
内郷

市民醫院
（入院隨意）
市原卯太郎　市原陸郎　市原三三勇
平町田町本通
電話一一五番

内科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病

共濟病院案内
磐城
院長　醫學博士　石山謙郎

内科　醫學博士　石山謙郎
小兒科　醫局員　佐久間粹
外科耳鼻咽喉科　醫學博士　柱重次
皮膚科　醫學士　有馬勇二郎
産婦人科　醫學士　五十嵐雄二
X光線科　醫學博士　石山謙郎
技師　藤慶造
衛生試驗所　醫學博士　石山謙郎
技師　高後利雄
藥局　藥劑士　吉本孝平

△診療時刻　午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町
磐城共濟會
電話六四一番

荆妻たけ子病氣の處藥石無効一月六日午前十時十分列去致候間此段謹告仕候

追而葬儀は本月十日午後二時自宅出棺長橋町姓源寺に於て佛式に依り相營み申候

昭和七年十月六日

男　山崎與三郎
親戚　山崎清三郎
總代　坂田治郎
友人　吉藤正雄
總代　本村清助
伏見沼鋒太郎
青山彦衛

諸判定廳舗
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神藝館

▲一白の人　元氣無く不安な感すれども沈潛なれば安全▲二黑の人　願望益に成り難く何となく煩雜な昼する日▲三碧の人　せい實な旨として人のひばうを受けぬやう注意▲四綠の人　し光を仰ぐが如き目追々と進展を來す吉日▲五黃の人　窮境に處するに人の援けを求むれば功あり▲六白の人　萬事榮々と進展を來たし福利みつから加るべし▲七赤の人　他の言に依り方針を更へず直進するが吉し▲八白の人　思はざる難問に遭ぐうする事ありじ取すべし▲九紫の人　始めは吉なれど終りにこん乱を今る不安の日

舊十月大安　土曜日　九月定　壬寅　十八日　宿　新